

# 札幌市立発寒西小学校の取組

(学校ホームページ：<http://www.hassamunishi-e.sapporo-c.ed.jp>)

## 1. 学校紹介

本校は、昭和 42 年に地域住民の期待を担い開校しました。学校教育目標に「健康（体）」「自主（知）」「協力（徳）」を掲げ、人間尊重・個の尊重を基盤に、子ども一人一人のよさを認め、伸ばしながら、豊かな心と確かな学力を育てることに努めてきました。近年は、「やさしさいっぱい あふれるえがお」の重点目標を設定し、子どもの思いや願いを生かすとともに、人との関わりやつながりを通して、子どもたちに達成感や成就感を味わわせる教育活動を展開しています。

校内研究では、研究主題を「自分らしさ 生き生き」と設定し、子どもの心を動かす授業づくりを目指して、日々の授業実践に取り組んでいます。一人一実践の全員授業公開を基本に、国語科、算数科、健康（学級活動・道徳・保健）、体育の 4 部会に分かれて研究を進めてきました。平成 23 年度には教育実践発表会を行い、市内教職員の方々から多くの御批正をいただきました。



## 2. 取組のねらい

本校は、各学年 4 学級となっており、各学年に体育部員がいます。そのメリットを生かし、発達段階を意識しながら、各学年 1 実践、年間 6 実践の体育の授業研究を積み重ねてきました。しかし、24 学級もあると、体育館やグラウンドが各学級に十分に割り当たりません。そこで体育部会では、学年ごとにカリキュラムの工夫を行いました。ある時期にボール運動、器械運動など、いくつかの単元を同時に組むことで、合同ではなく、学級単位の体育の学習を行うことができ、運動の場や用具、活動時間を十分に確保できるようになりました。また、一つの単元に長い時間をかけて、取り組むことができるようになるため、休み時間などに子どもたちが自主的に練習する姿も見られるようになりました。



また、全校体制で取り組む「発寒西レインボーなわ跳びカード」を製作するとともに、運動に親しめる環境づくりに取り組むこととしました。

## 3. 取組の実際

### (1)「発寒西レインボーなわ跳びカード」の取組



全校みんなで取り組めるなわ跳びのがんばりカードを作りました。前とびを 10 回、後ろとびを 5 回跳ぶだけの「ホワイト」をクリアした後に、「レッド」から始まる七色のカードに取り組めます。カードは印刷室に常備し、



クリアすると認定証がもらえて、次のカードに進めます。年度をまたいで挑戦できる場所もよいところで、子どもたちは、体育の時間や休み時間にこつこつと取り組んでいます。

## (2) 見通しやあこがれをもって

グラウンド、中庭では、ボール遊び、鉄棒、なわ跳びと多様な遊びが見られます。児童数の割に校舎やグラウンドが狭いため、なわ跳びを行うスペースが限られてしまっていますが、逆に狭いなわ跳びスペースには、いろいろな学年の子どもたちや先生が集まり、お互いの技を見ながら、跳び方を学び合ったり、高学年へのあこがれをもったりしながら、楽しい休み時間を過ごしています。



また、子どもたちが見通しをもちながら練習に取り組めるよう、体育館の掲示板に、技の紹介や全カードを掲示しています。



## (3) ダブルダッチや長なわ跳びへの発展

学習発表会で、なわ跳びの成果を発表したり、ダブルダッチに挑戦したりする学年がありました。また、テレビ局主催のロープジャンプに出場するために、チームを組織して練習に取り組む学級もありました。

一人一人のなわ跳びが、集団での取組へと発展していけることも、なわ跳びの魅力と考えられます。

## (4) なわ跳びの取組の課題

今年度から取り組んだなわ跳びカードには、課題も多くありました。基本的に教師が合否の判定をするシステムとしたため、子どもの希望に応じてられないことも多かったことや、時間や空間の確保が難しい時期もあることなどです。今後の課題として次年度以降、改善を図っていきたいと考えています。



## (5) 運動遊びを促進する場づくり

グラウンドの隅にロープでドッジボールコートを開きました。学級遊びやスポーツ委員会の集会、体育のラインサッカーなどで活用しました。子どもたちは、このコートを使って、集会や体育の時間に限らず休み時間などでも自分から進んで運動遊びに取り組んでいます。



## 4. 今年度の取組のまとめ

今年度、子どもたちにとって運動や体を動かす遊びが日常的なものになっていくことに期待して、いくつかの取組を試行しました。

子どもたちが運動や体を動かす遊びを楽しむためには、運動する十分な時間があること、夢中になって取り組める空間があること、共に楽しめる仲間がいることが条件だと考えています。今後も、教職員が創意工夫しながら、子どもたちの運動遊びの環境などを整え、子どもの体力向上に努めていきたいと考えています。